

研究内容フロー

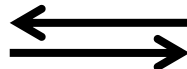
図1

研究班: 社会学・医療経済学の専門家、疫学専門家、産婦人科医、産業医

女性の健康

～社会・経済学的課題の明示化と解決へ向けて～

女性特有の疾患を抽出



疾患好発年齢から幅広い年齢層へアプローチ
(30～40代) 子宮内膜症・子宮腺筋症
(50～60代) 骨粗鬆症、慢性関節リウマチ、認知症

疾患による医療費支出の推計

経済的損失の算定

平成29年度～平成30年度

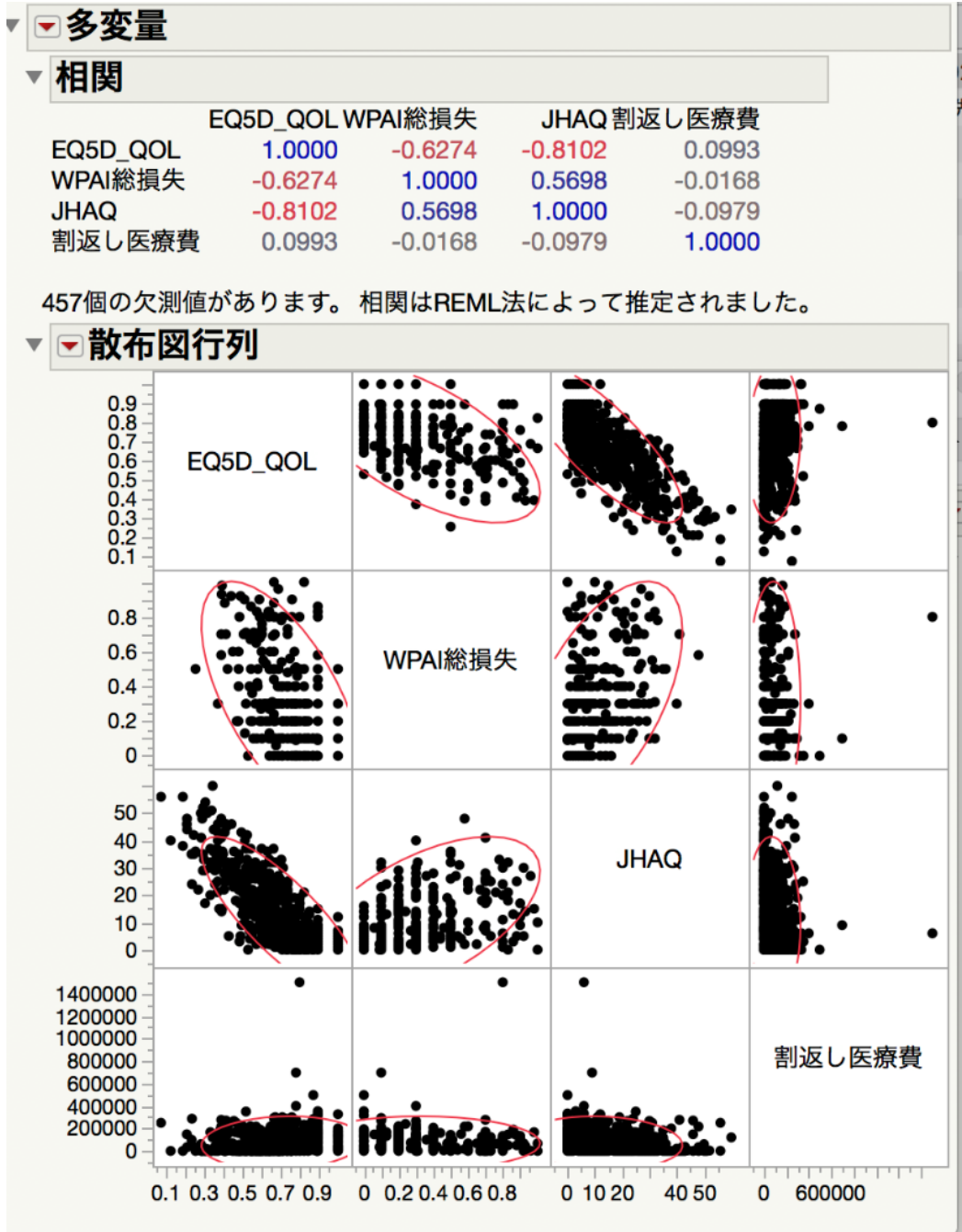
実臨床データや既存データベースの活用

医療による経済活動への悪影響を推計

女性の健康増進のための実地例収集

女性の健康増進のための課題、対策から政策提言へ

女性の健康増進と向上⇒社会経済活動の向上と活性化

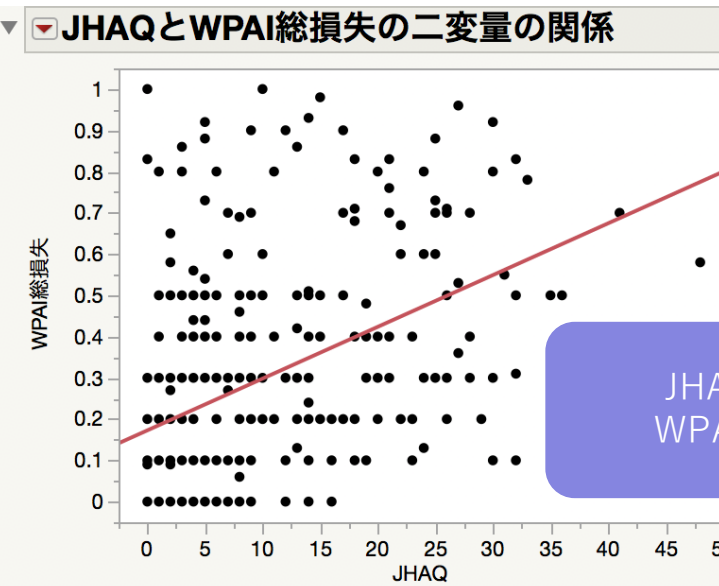
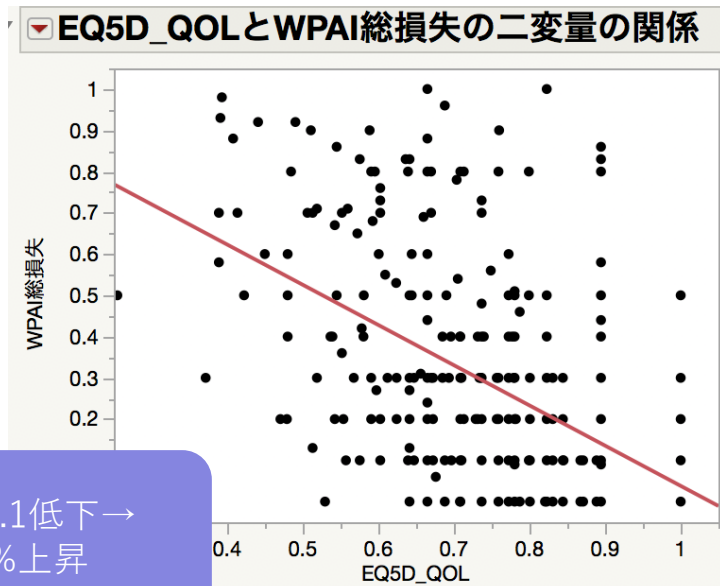


- J-HAQ, EQ-5D, WPAIなどの3指標間と医療費との相関なし

⇒ 公的助成制度により経済的損失がある程度限定的である可能性が示唆された

WPAI総損失

J-HAQ値と正の相関、EQ-5Dスコアと負の相関



JHAQスコア1上昇→
WPAI損失は1.2%上昇

EQ-5DのQOL値0.1低下→
WPAI損失は9%上昇

直線のあてはめ

WPAI総損失 = 1.0129364 - 0.9748658*EQ5D_QOL

直線のあてはめ

あてはめの要約

R2乗	0.286467
自由度調整R2乗	0.284506
誤差の標準偏差(RMSE)	0.216974
Yの平均	0.282213
オブザベーション(または重みの合計)	366

あてはまりの悪さ(LOF)

分散分析

パラメータ推定値

項	推定値	標準誤差	t値	p値(Prob> t)
切片	1.0129364	0.061501	16.47	<.0001*
EQ5D_QOL	-0.974866	0.080643	-12.09	<.0001*

直線のあてはめ

WPAI総損失 = 0.1726707 + 0.0125463*JHAQ

直線のあてはめ

あてはめの要約

R2乗	0.212737
自由度調整R2乗	0.210615
誤差の標準偏差(RMSE)	0.227071
Yの平均	0.279062
オブザベーション(または重みの合計)	373

あてはまりの悪さ(LOF)

分散分析

パラメータ推定値

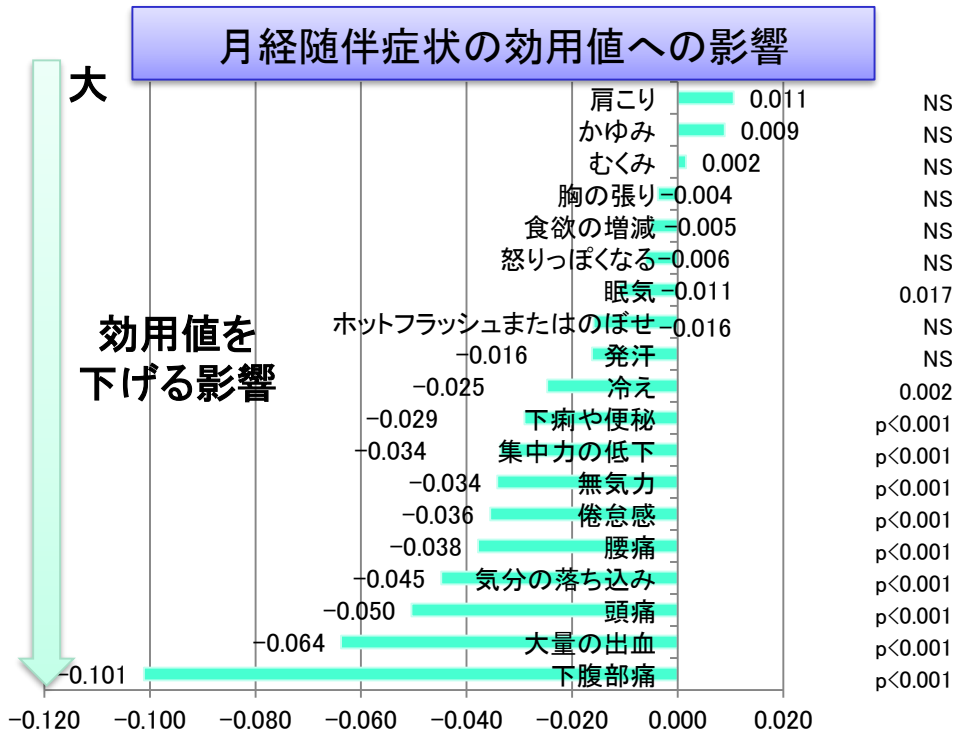
項	推定値	標準誤差	t値	p値(Prob> t)
切片	0.1726707	0.015847	10.90	<.0001*
JHAQ	0.0125463	0.001253	10.01	<.0001*

月経不順の有無と効用値

	効用値
月経が順調なもの n=4490	0.689
月経が不順なもの n=1558	0.661

} p<0.001

- 月経不順があると有意に効用値は低い
- 程度としては担癌患者のそれに匹敵



- 効用値を下げる月経随伴症状は9つあった
- 下腹部痛、出血、頭痛、気分の落ち込みの順で影響が大きい

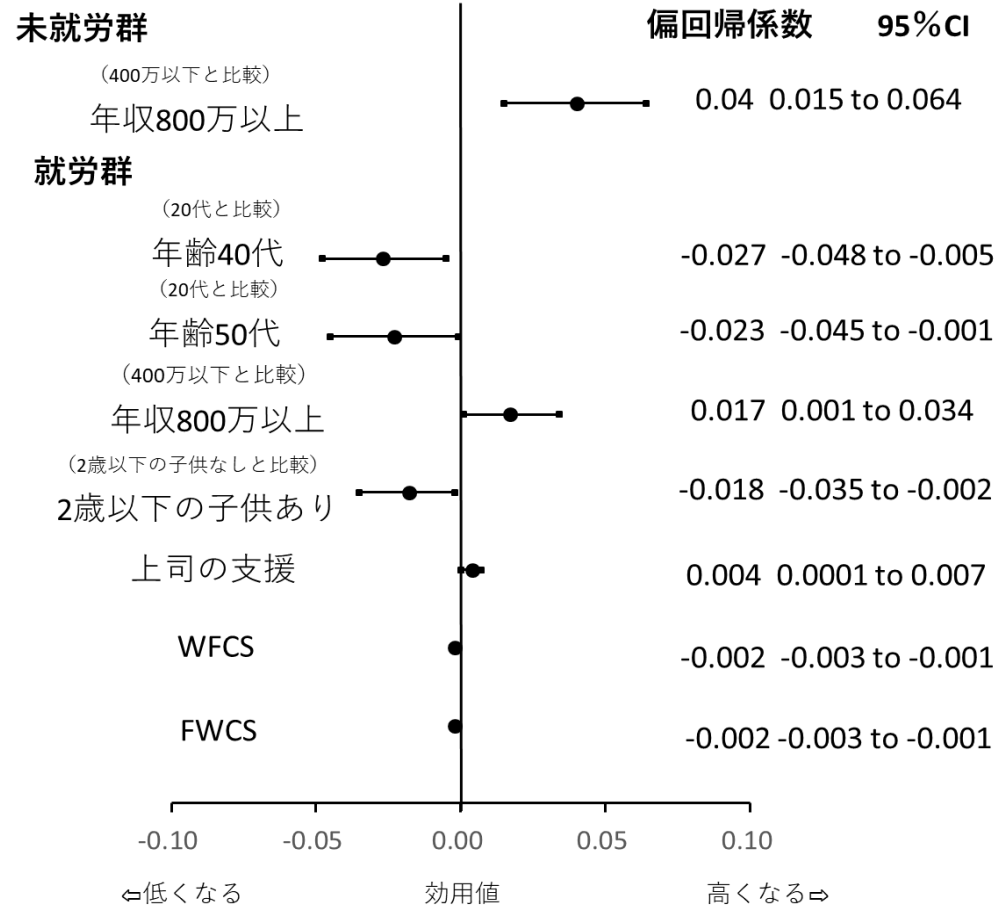
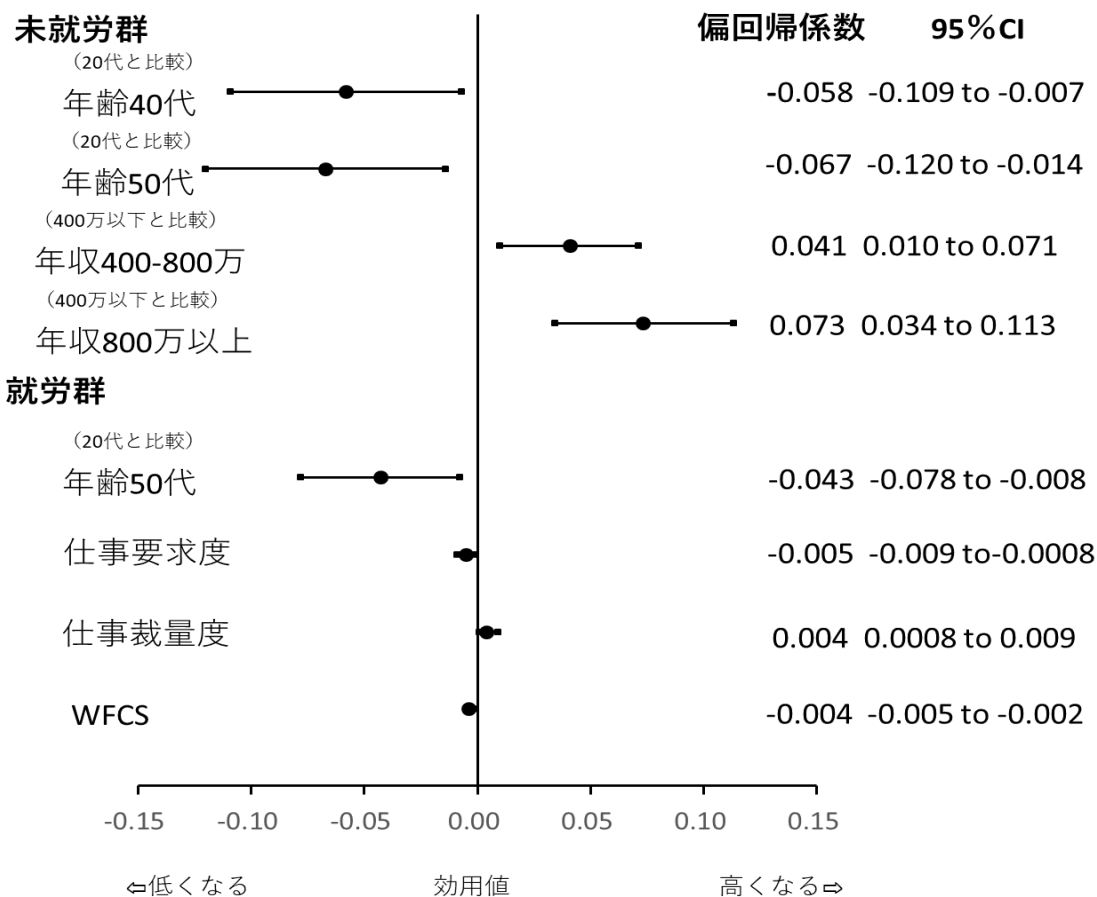
就労群及び未就労群における女性効用値の関連因子

(EQ-5D-5L)

(SF-6D)

EQ-5D-5L

SF-6D

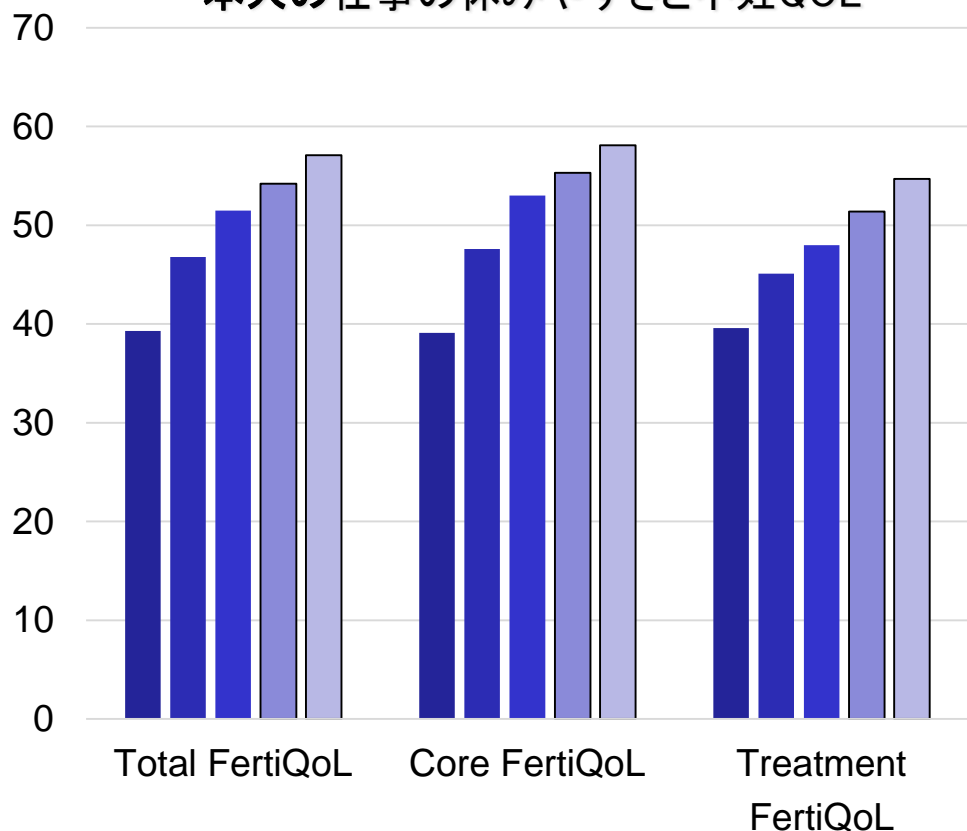


効用値を従属変数とした重回帰モデルにおける偏回帰係数及び95%信頼区間

就労・未就労に関わらず、高齢者、相対的低所得者はQOL(効用値)が低くなるため社会的支援が必要と思われる。就労群では、2歳以下の子供を持つ者、上司の支援の乏しい者、仕事の要求度の高い者、仕事の裁量度の低い者、家庭と仕事の間に葛藤のある者のQOL(効用値)が低くなるため社会的支援が期待される。

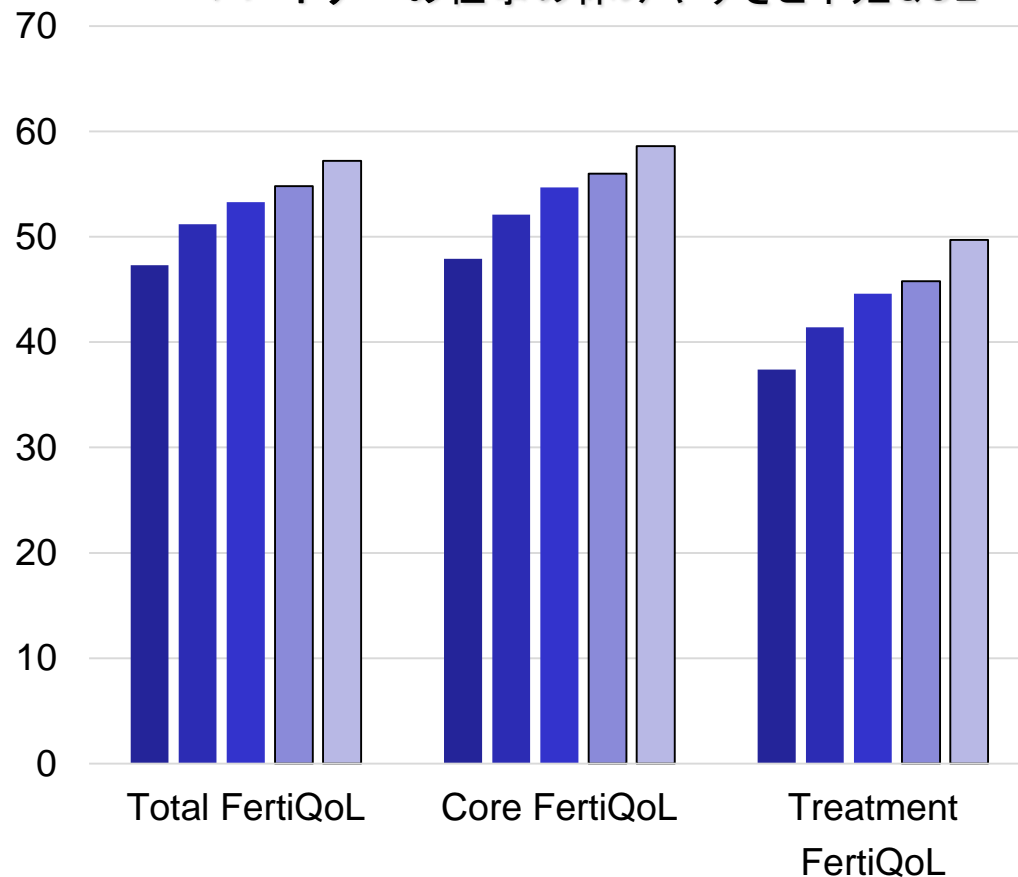
主観的な「仕事の休みやすさ」と不妊QOL

本人の仕事の休みやすさと不妊QOL

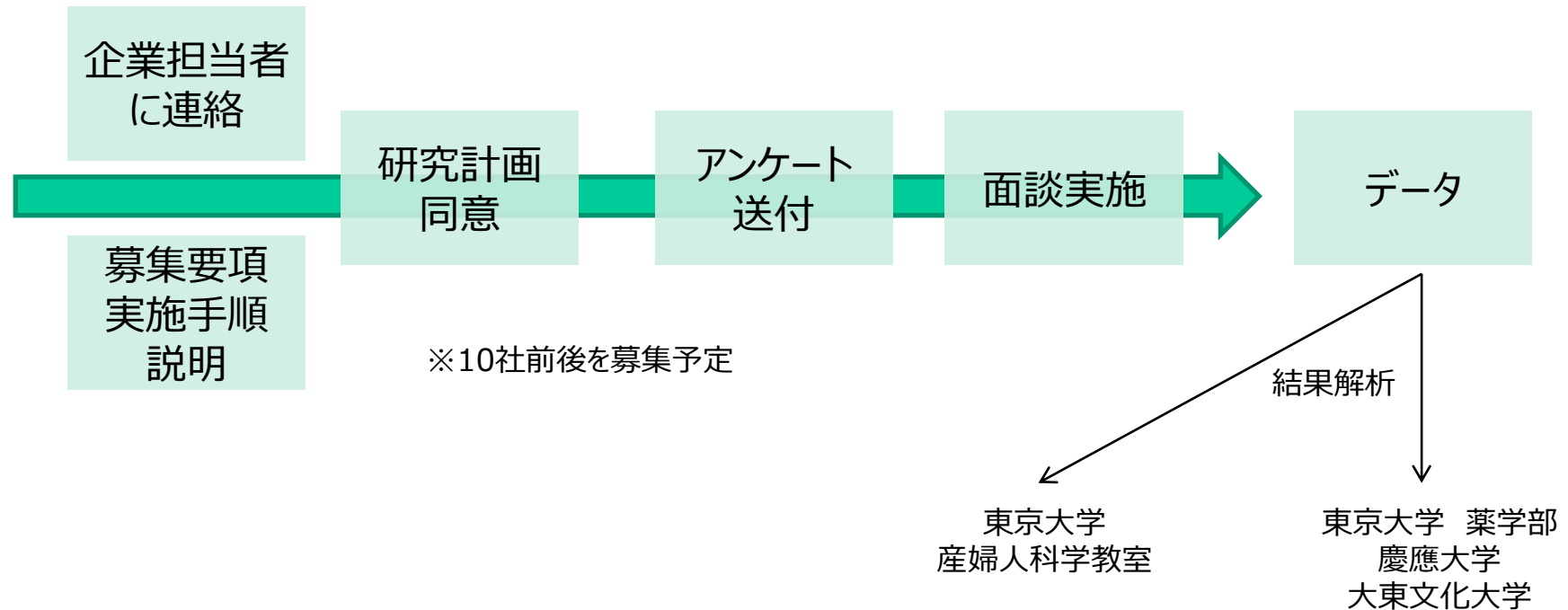


- 非常に休みづらい
- 休みづらい
- どちらともいえない
- 休みやすい
- 非常に休みやすい

パートナーの仕事の休みやすさと不妊QOL



本人の仕事が休みやすいほど、
 パートナーの仕事が休みやすいほど、
 不妊全般に関するQOL 値、
 不妊治療に関するQOL 値ともに高くなる
 (全てP < 0.001 for trend)



結果概略

- 企業上層部への女性の登用は始まったばかりだが、女性特有な疾患に対するケアは結構なされている
- 企業規模が大きい場合には、人事部、保険組合などが協力しながら体調の悪い社員を把握している
- 産休・育休取得率は企業により大きく異なる
- 各企業に旗振り役がいると、意識そのものの浸透が早い
- 50～60代管理職男性に対する啓発は不十分